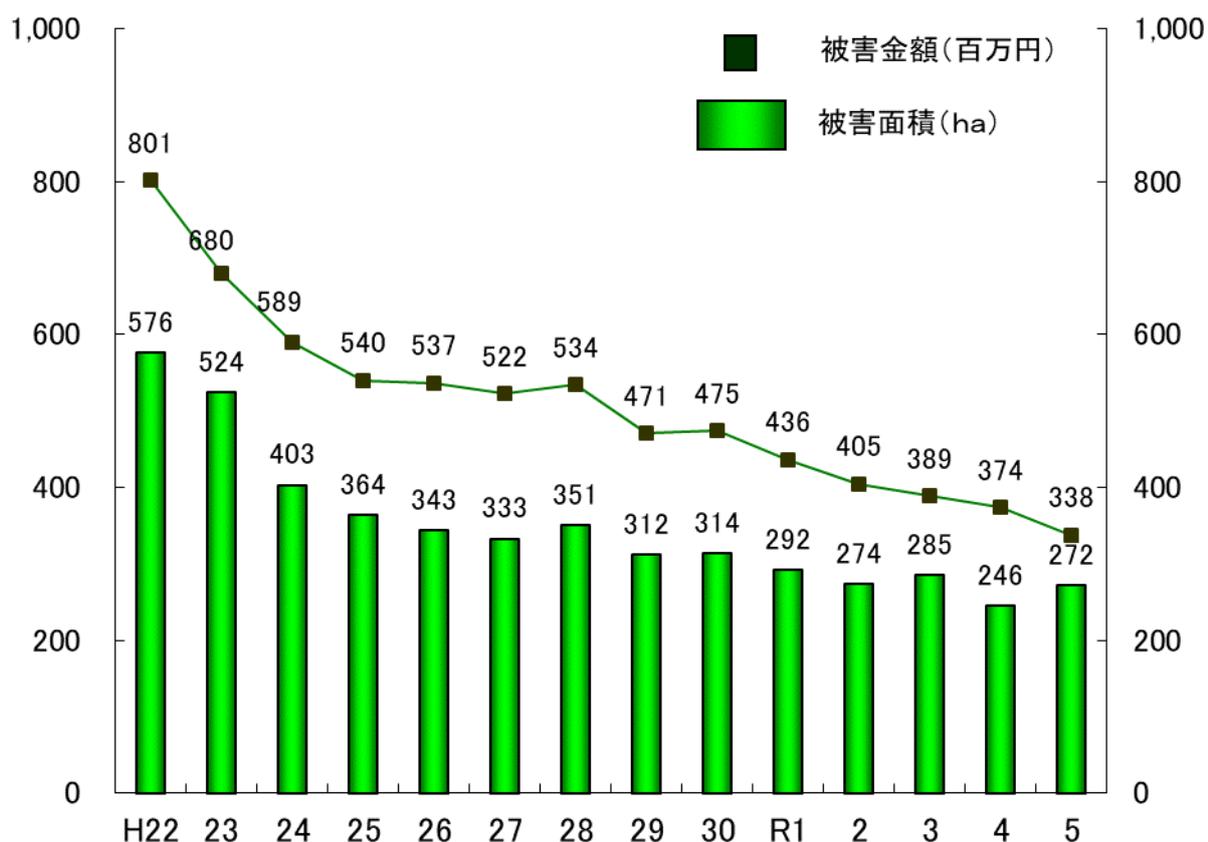


I. 令和5年度の野生鳥獣による農林業被害の発生状況と傾向について

1 概要

(1) 農林業被害の推移

山口県における野生鳥獣による農林業被害は、平成22年度以降、減少傾向にあります。令和5年度の被害金額は、対前年度比10%減の約3億3千8百万円となりました。



図－1 被害面積及び被害金額の推移（鳥獣被害全体）

(2) 鳥獣別・作物別被害の内訳

令和5年度の被害金額を鳥獣別に前年度と比較すると、イノシシは減少し、シカ、サルは増加しています。

鳥獣別の被害金額は、獣類が約3億7百万円（全体の91%）、鳥類が約3千1百万円（全体の9%）となっています。

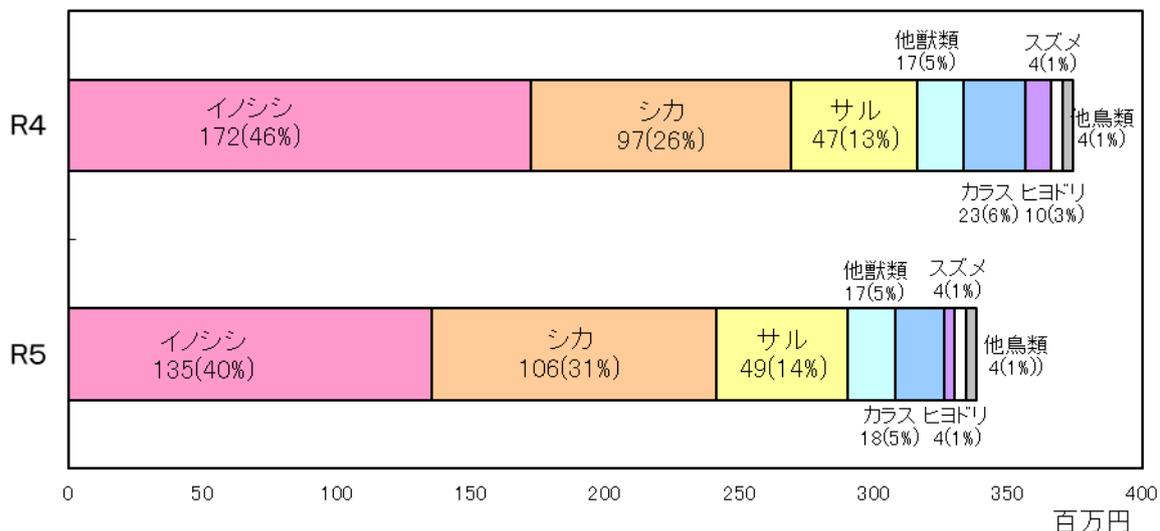


図-2 鳥獣別の被害金額

作物別の被害金額は、例年どおり水稲が最も多くなっています。被害金額は、野菜、果樹、いも類、造林木は減少、他はほぼ横ばいです。

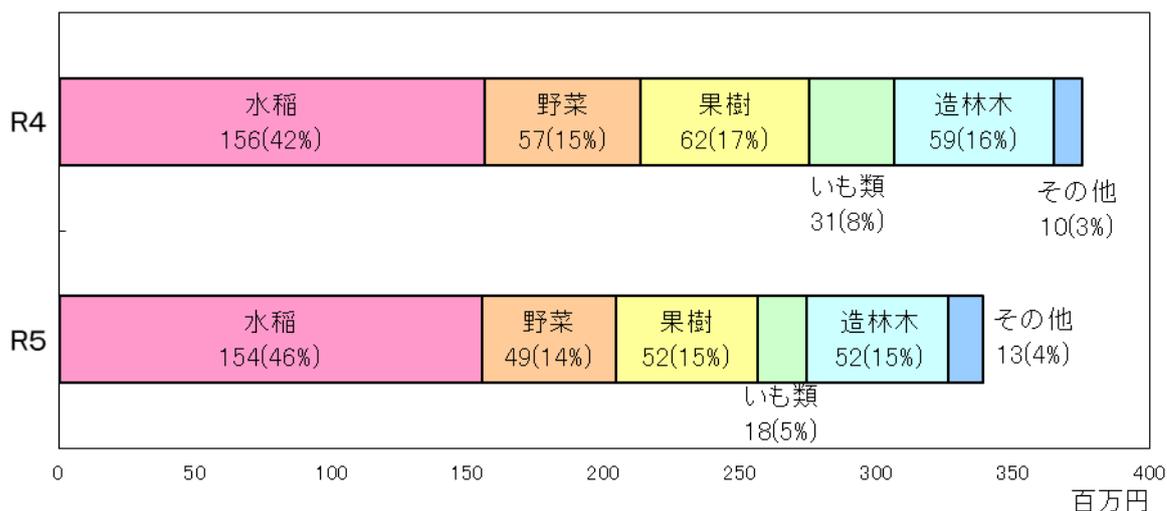


図-3 作物別の被害金額

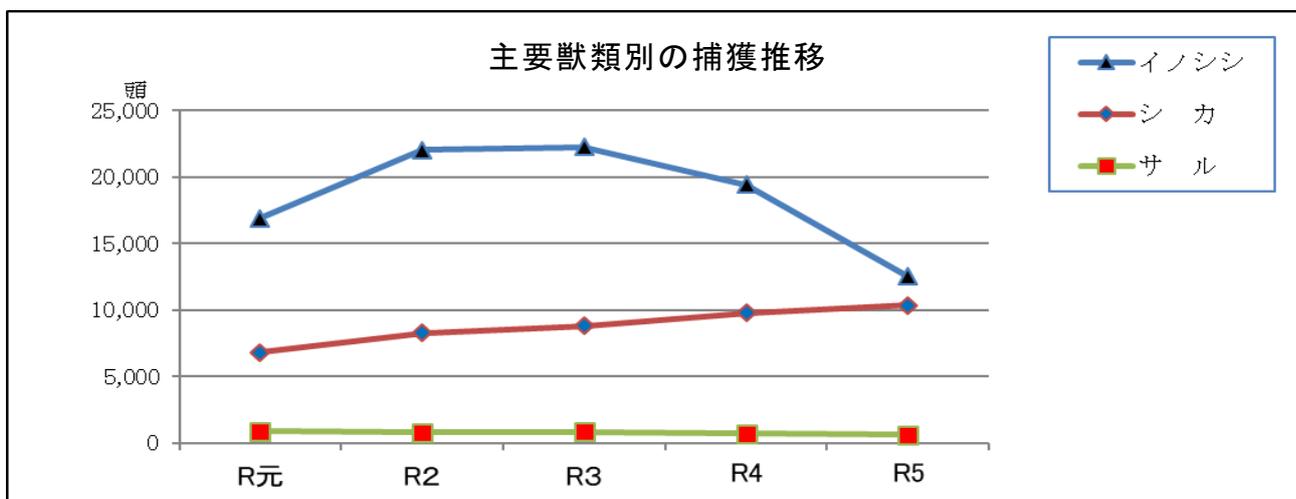
【参考】

捕獲数については、猟友会の協力により、増加傾向にあったが、令和4年度より減少に転じている。

令和5年度は、シカについては過去最高の捕獲数となった。

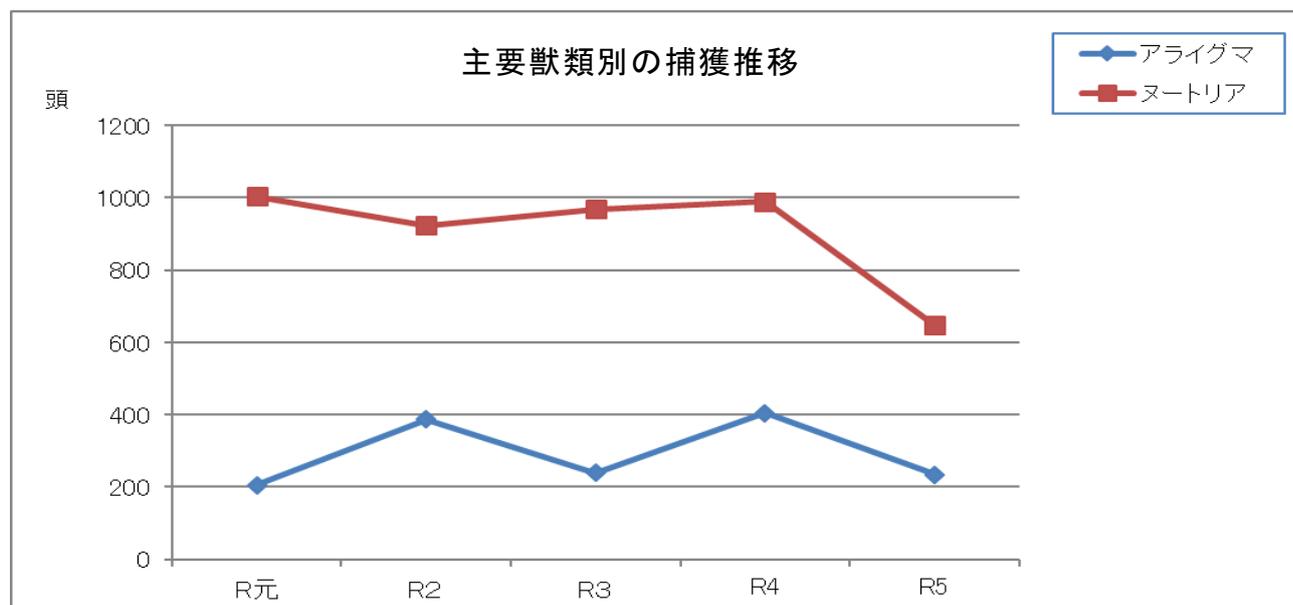
○主要獣類別の捕獲実績（R5は速報値） （単位：頭）

区分	R元	R2	R3	R4	R5	増減
イノシシ	16,870	22,004	22,228	19,400	12,516	▲6,884頭(35.5%減)
シカ	6,788	8,255	8,775	9,757	10,319	+562頭(5.8%増)
サル	876	801	816	706	616	▲90頭(12.7%減)



（単位：頭）

区分	R元	R2	R3	R4	R5	増減
アライグマ	206	387	239	404	234	▲170頭(42.1%減)
ヌートリア	1,003	924	968	989	647	▲342頭(34.6%減)



2 獣類別の被害状況

(1) イノシシ

イノシシによる被害は、前年度比21%減の約1億3千5百万円となり、被害額がピークであった平成22年度以降で最も少ない被害額となっています。

令和5年度の被害額の大幅な減少については、豚熱の感染拡大も要因の一つとして考えられます。

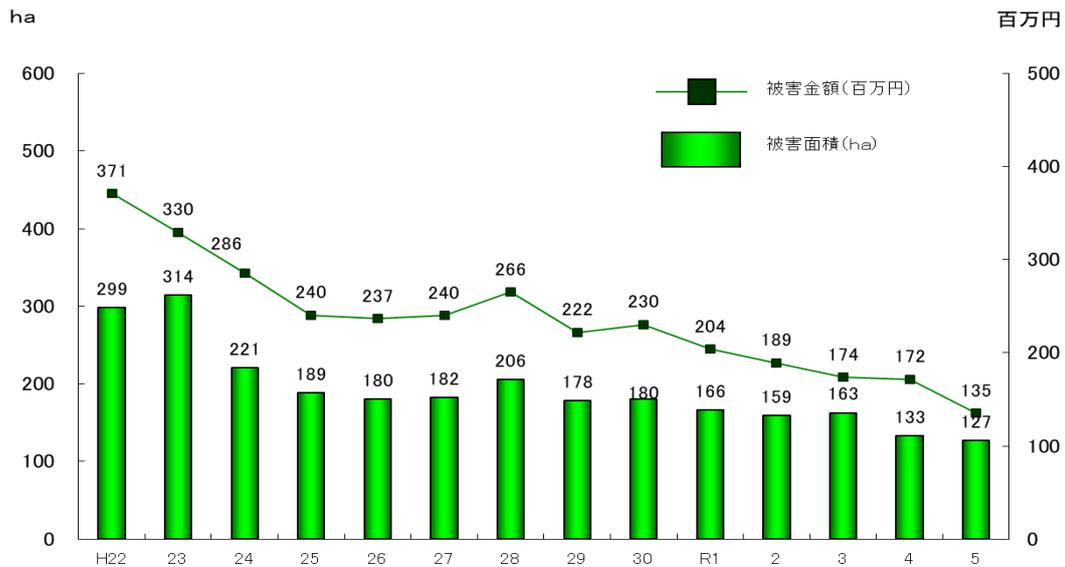


図-4 被害面積及び被害金額の推移 (イノシシ)

被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合は5割弱で推移しており、鳥獣による被害の中で、最も大きな割合を占めています。

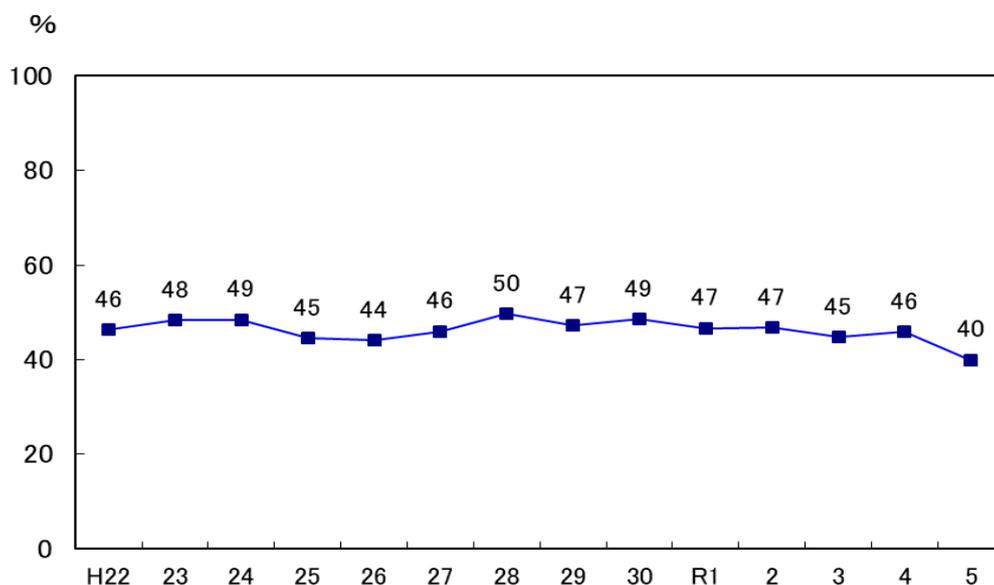


図-5 被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、水稻が約1億3百万円と最も高く、被害金額全体の77%を占めています。次いで、いも類、果樹、野菜の順になっています。

百万円

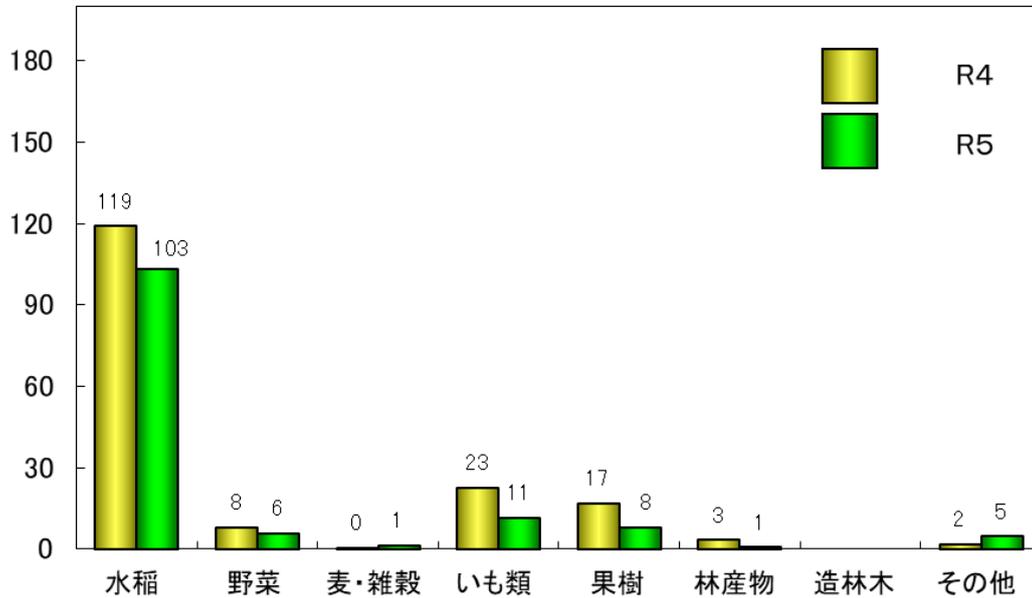


図-6 イノシシによる作物別被害金額

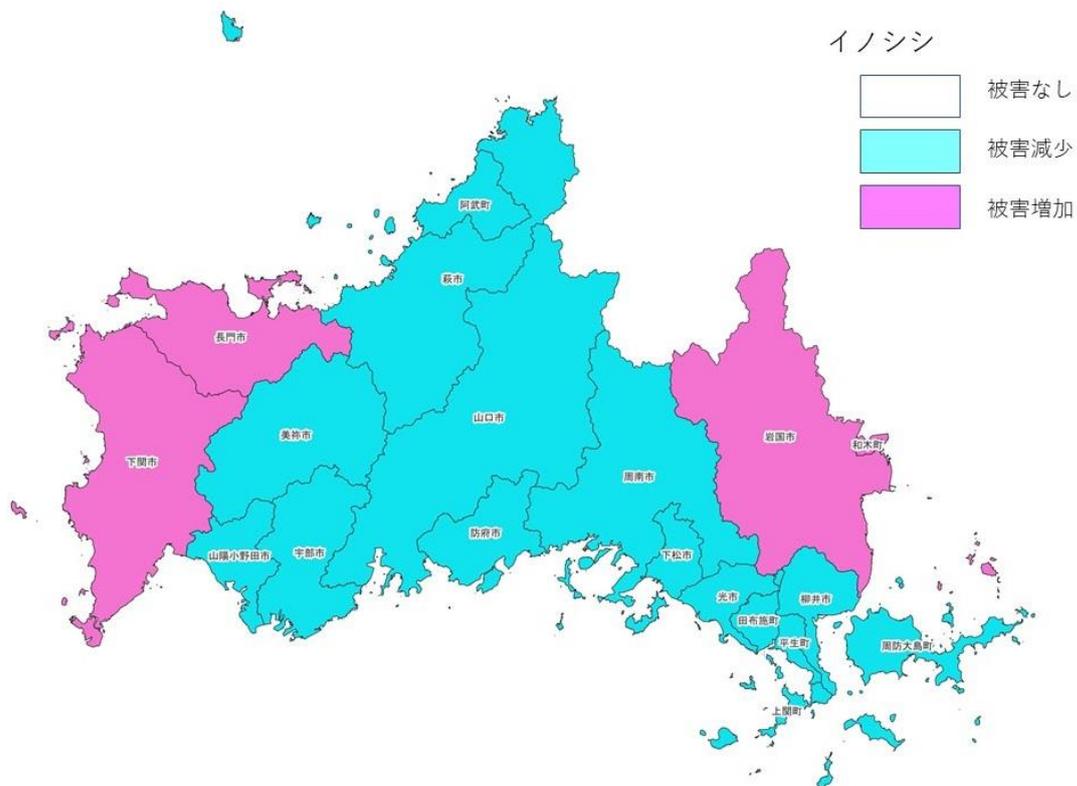


図-7 イノシシ被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(2) シカ

シカによる被害は平成29年度から減少傾向にありましたが、令和2年度以降増加傾向にあり、令和5年度は対前年度比9%増の約1億6百万円となっています。

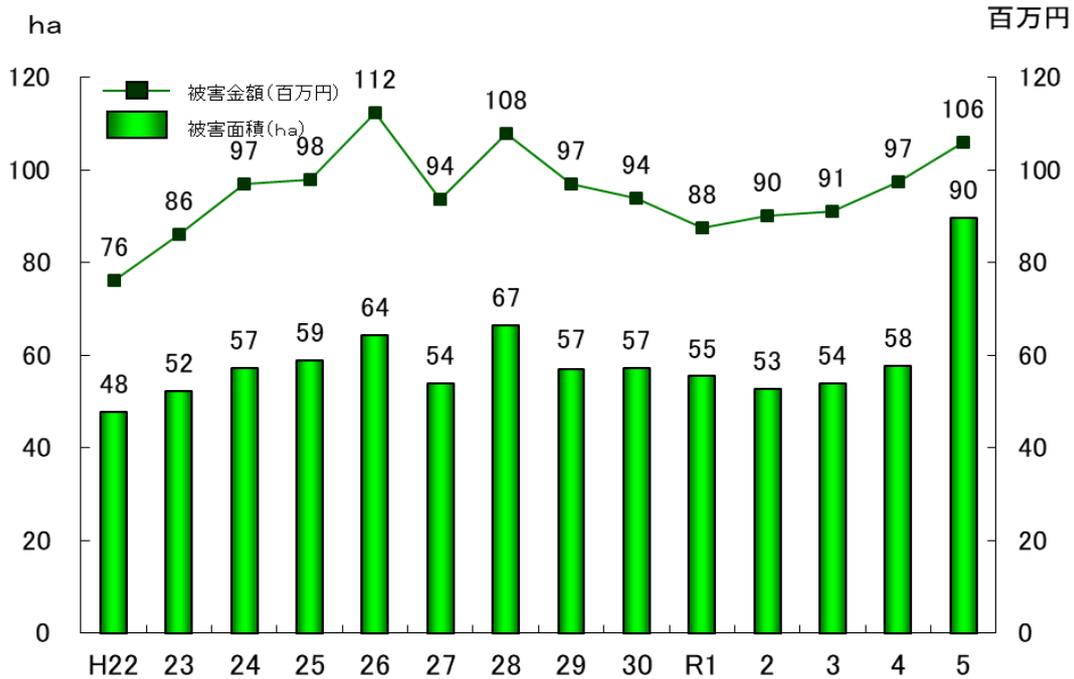


図-8 被害面積及び被害金額の推移 (シカ)

近年は、被害金額全体に占める割合は20%前後で推移していましたが、令和2年度以降、徐々に割合が上がっており、深刻な影響が懸念されます。

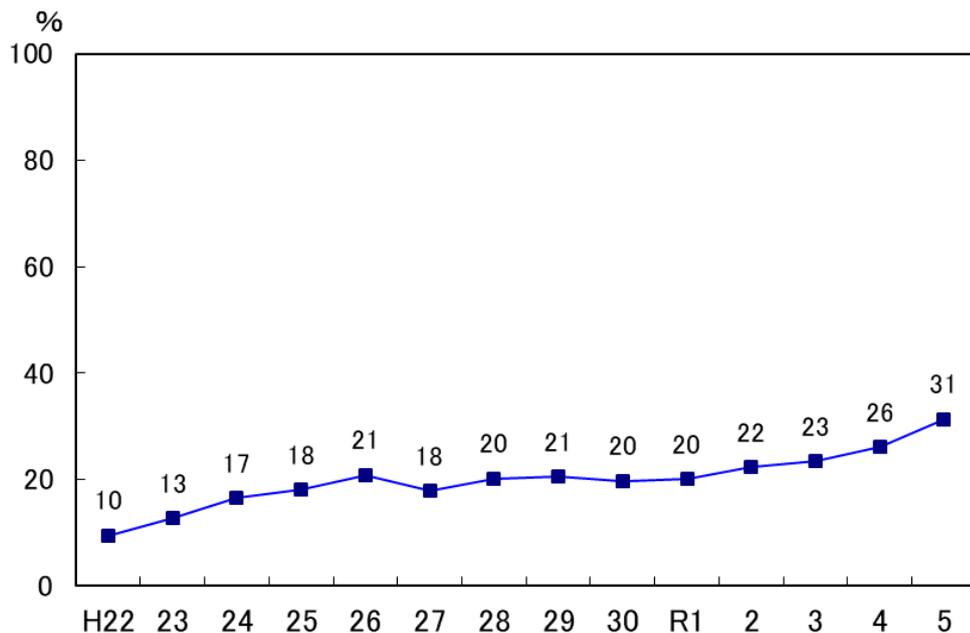


図-9 被害金額全体に占めるシカ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、造林木の角こすりによる被害が最も大きく、全体の44%を占めており、次いで水稲、造林木の食害、果樹、いも類、野菜の順となっています。

百万円

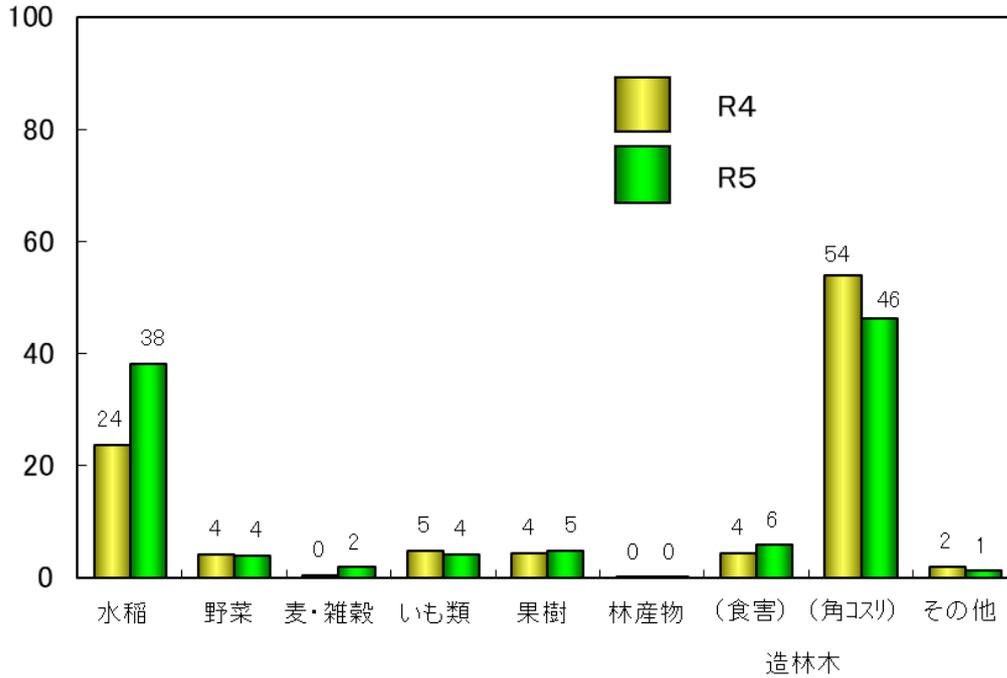


図-10 シカによる作物別被害金額

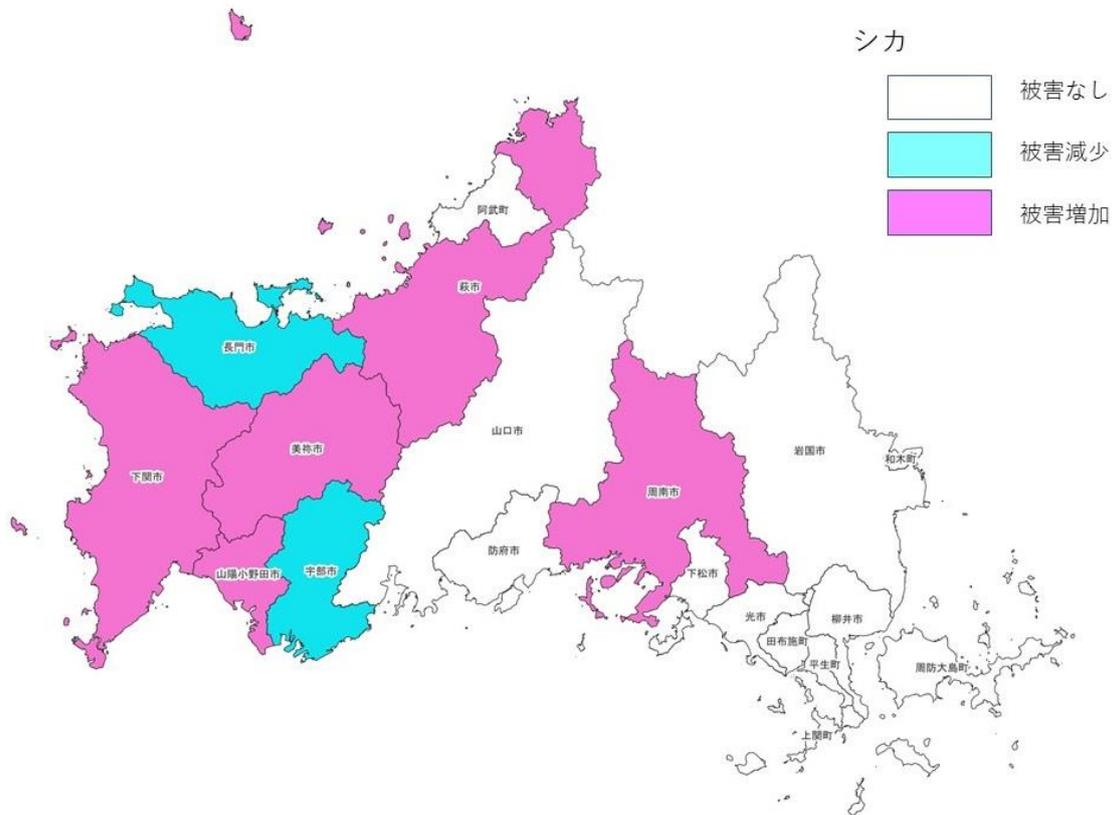


図-11 シカ被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(3) サル

サルによる被害は平成25～27年度にかけて横ばい、平成28年度から再び被害が減少傾向にありましたが、令和5年度は、対前年度比3%増の約4千9百万円となっています。

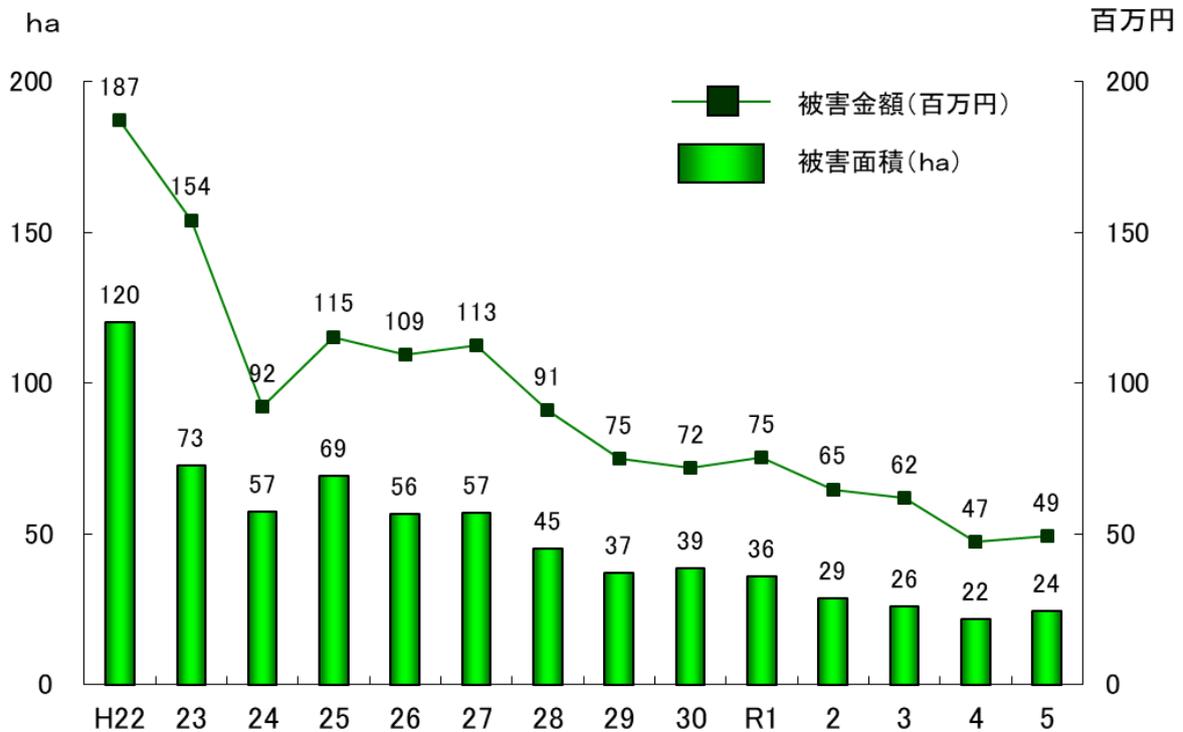


図-1 2 被害面積及び被害金額の推移 (サル)

被害金額全体に占めるサルの割合は、近年は15%前後で推移しています。

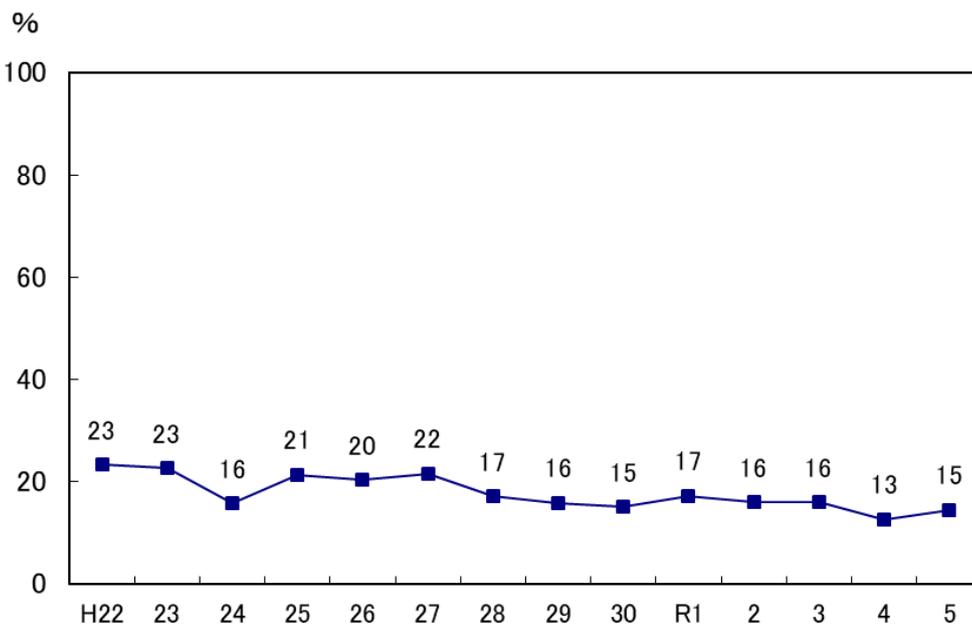


図-1 3 被害金額全体に占めるサル被害の割合の推移

作物別の被害金額では、野菜が約2千3百万円と最も高く、被害金額全体の48%を占めており、次いで果樹、いも類、水稻の順となっています。

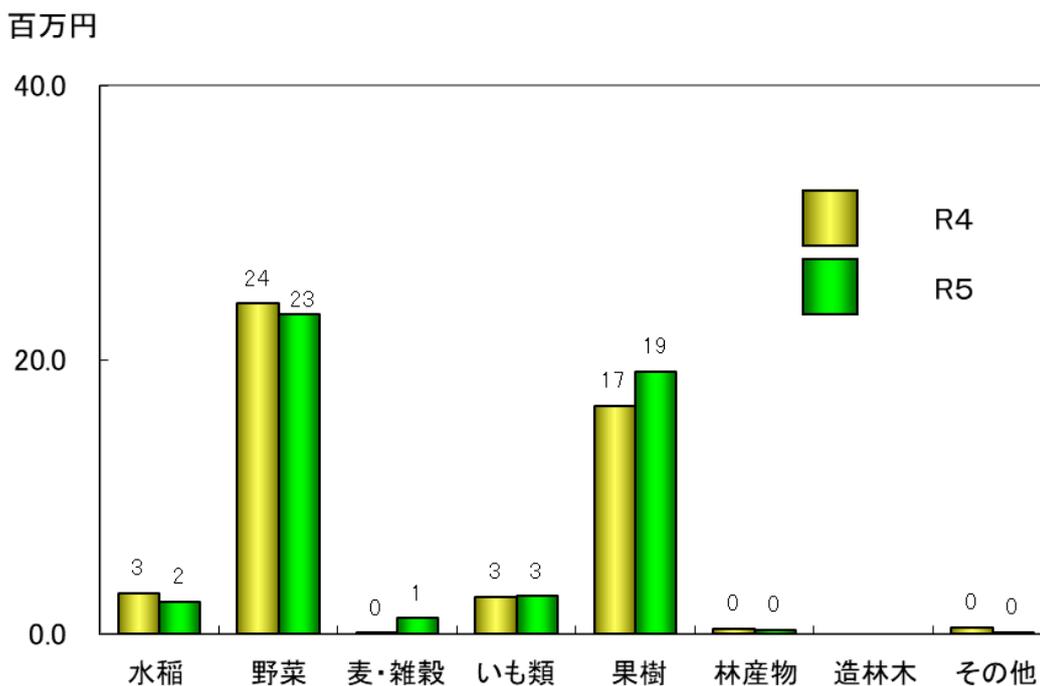


図-14 サルによる作物別被害金額

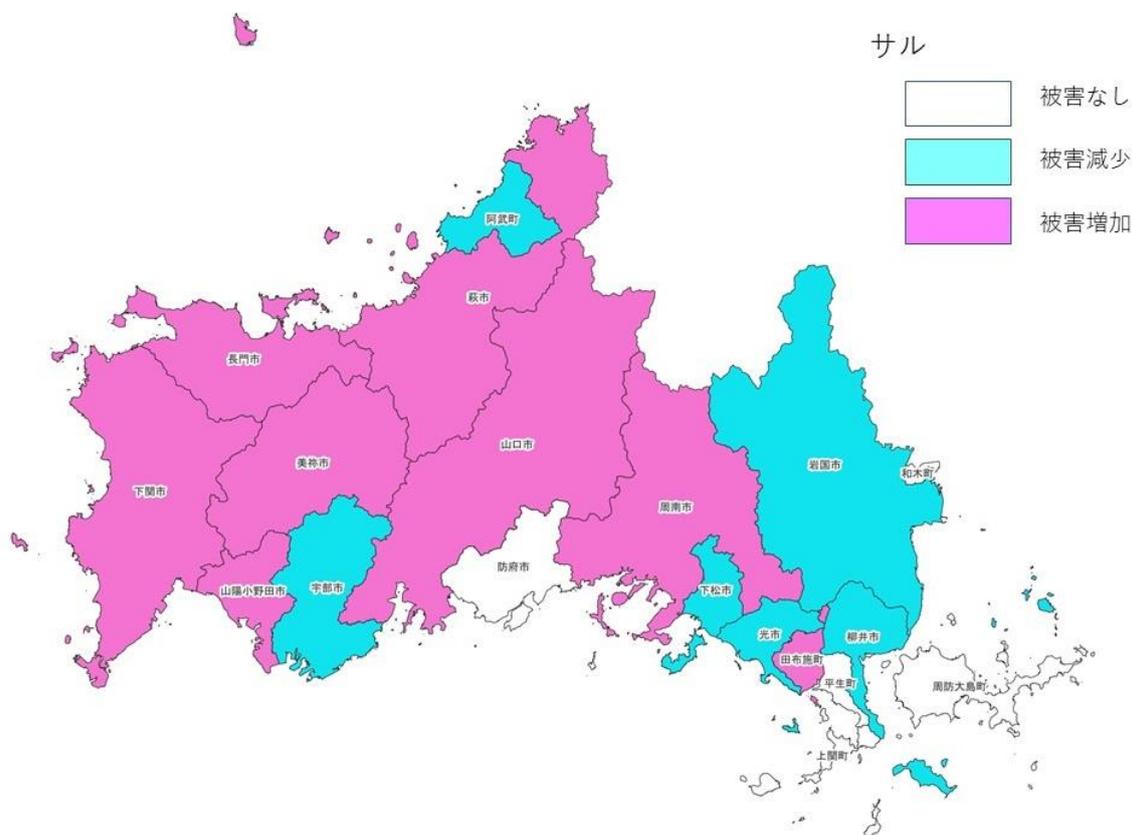


図-15 サル被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(4) クマ

クマによる被害は令和3年度より減少傾向にありましたが、令和5年度は対前年度比16%増の約2百40万円となっています。

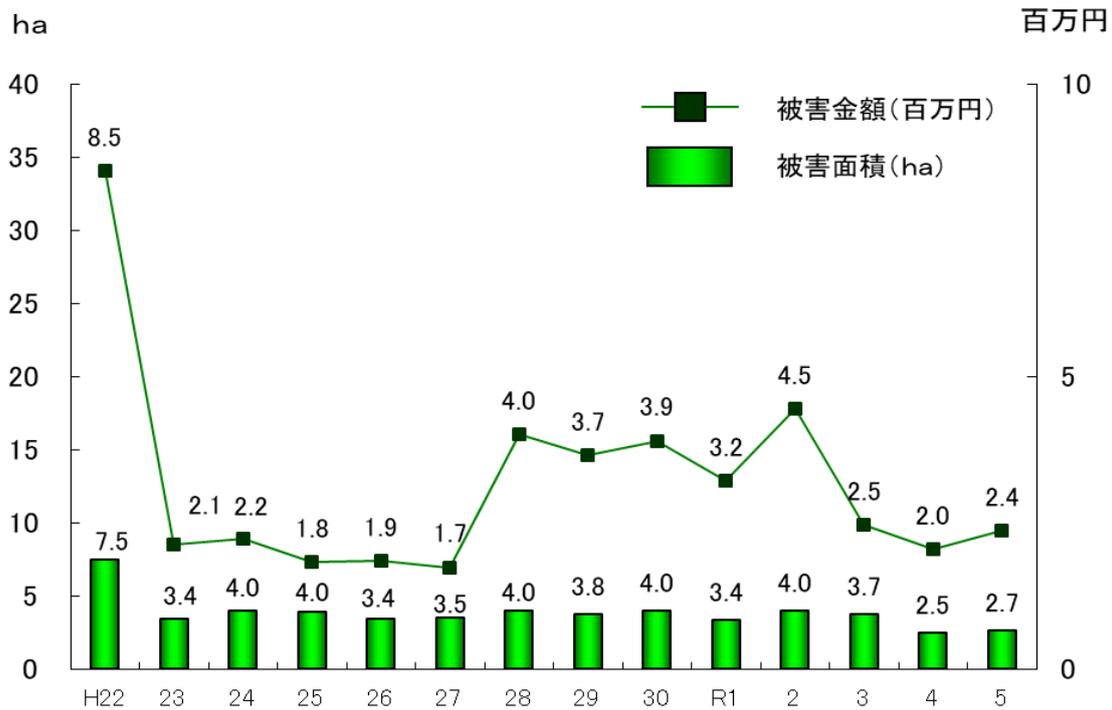


図-16 被害面積及び被害金額の推移 (クマ)

作物別の被害金額では、果樹が84%、その他(養蜂)が16%となっています。

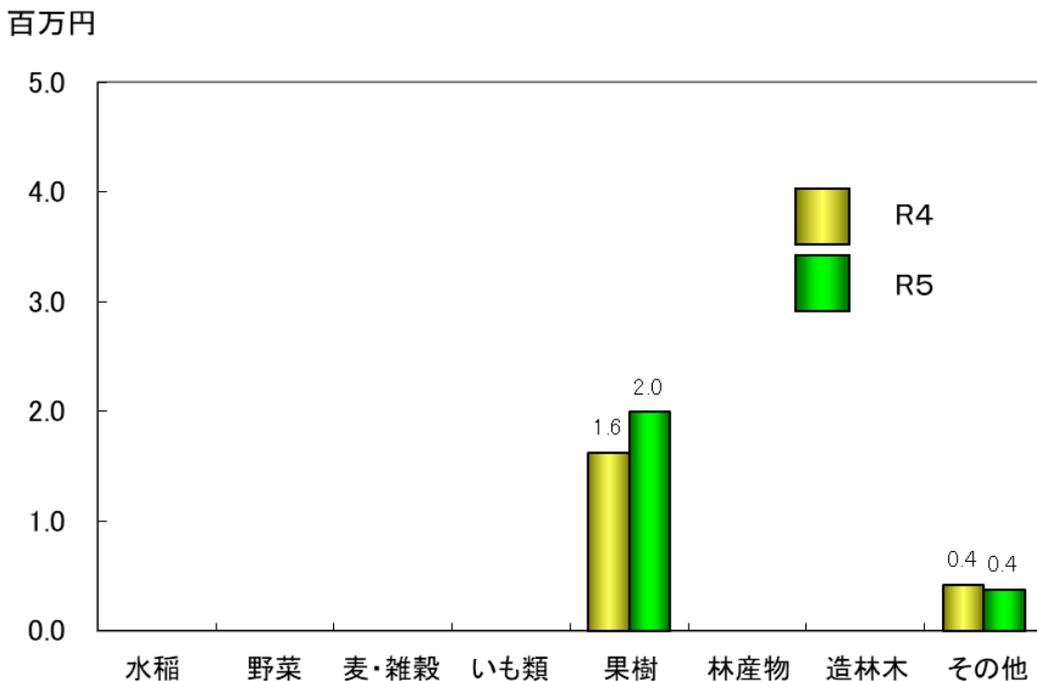


図-17 クマによる作物別被害金額

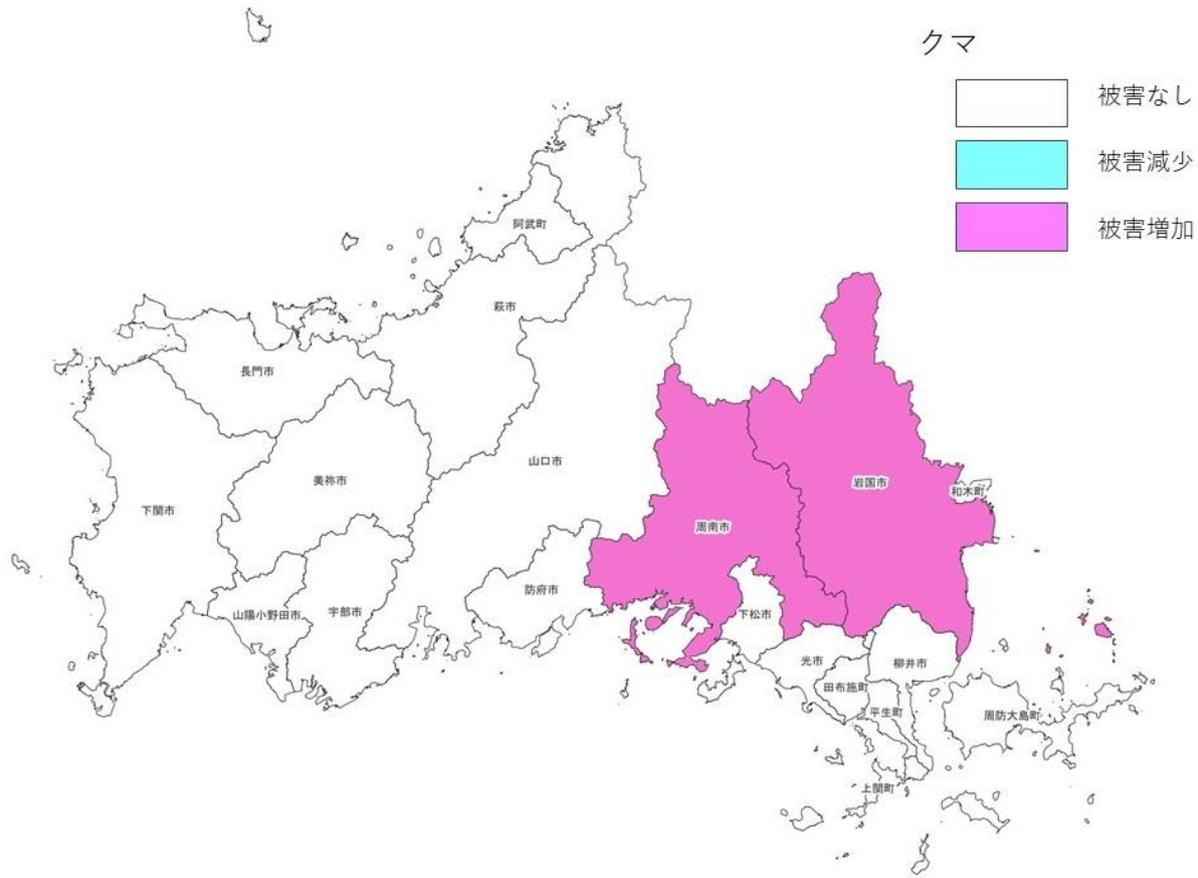


図-18 クマ被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(5) アライグマ

アライグマによる被害は、平成29年度以降は年度毎に増減を繰り返していましたが、令和5年度は対前年度比12%増の約4百万円となっています。

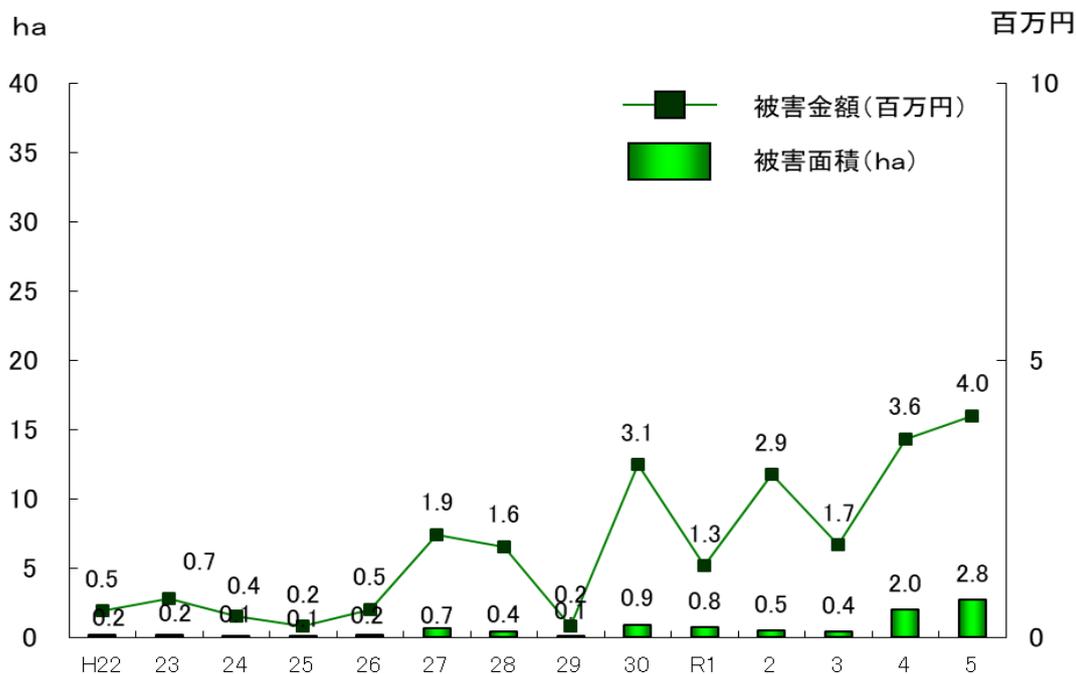


図-19 被害面積及び被害金額の推移（アライグマ）

作物別の被害金額では、果樹が67%、野菜が23%となっています。

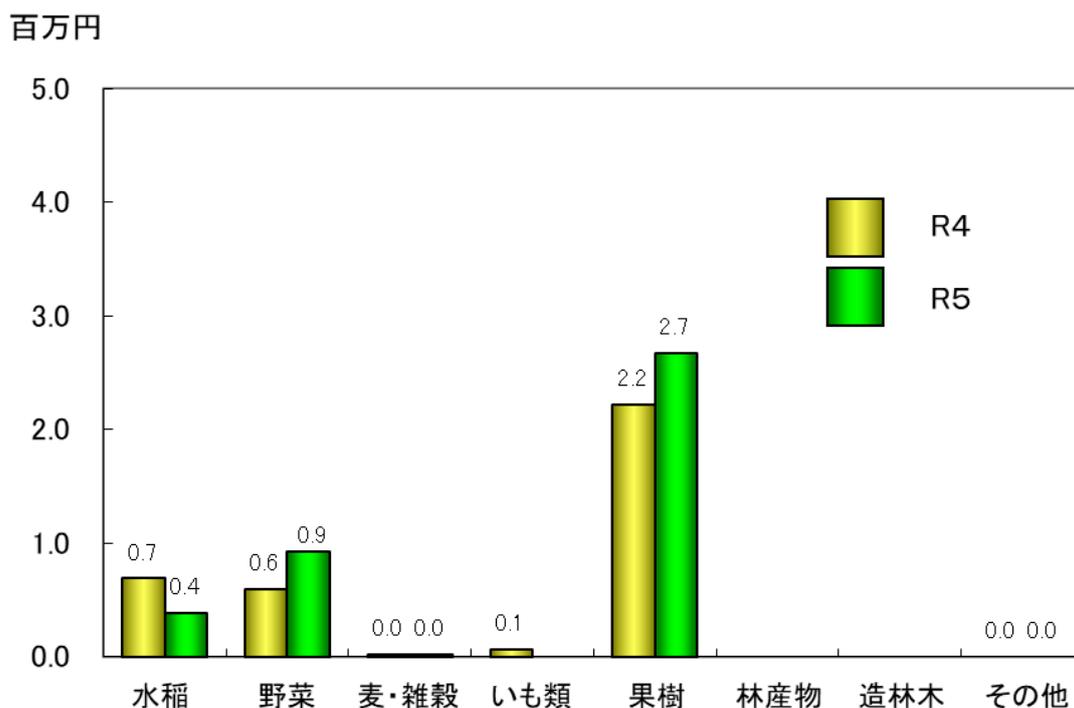


図-20 アライグマによる作物別被害金額

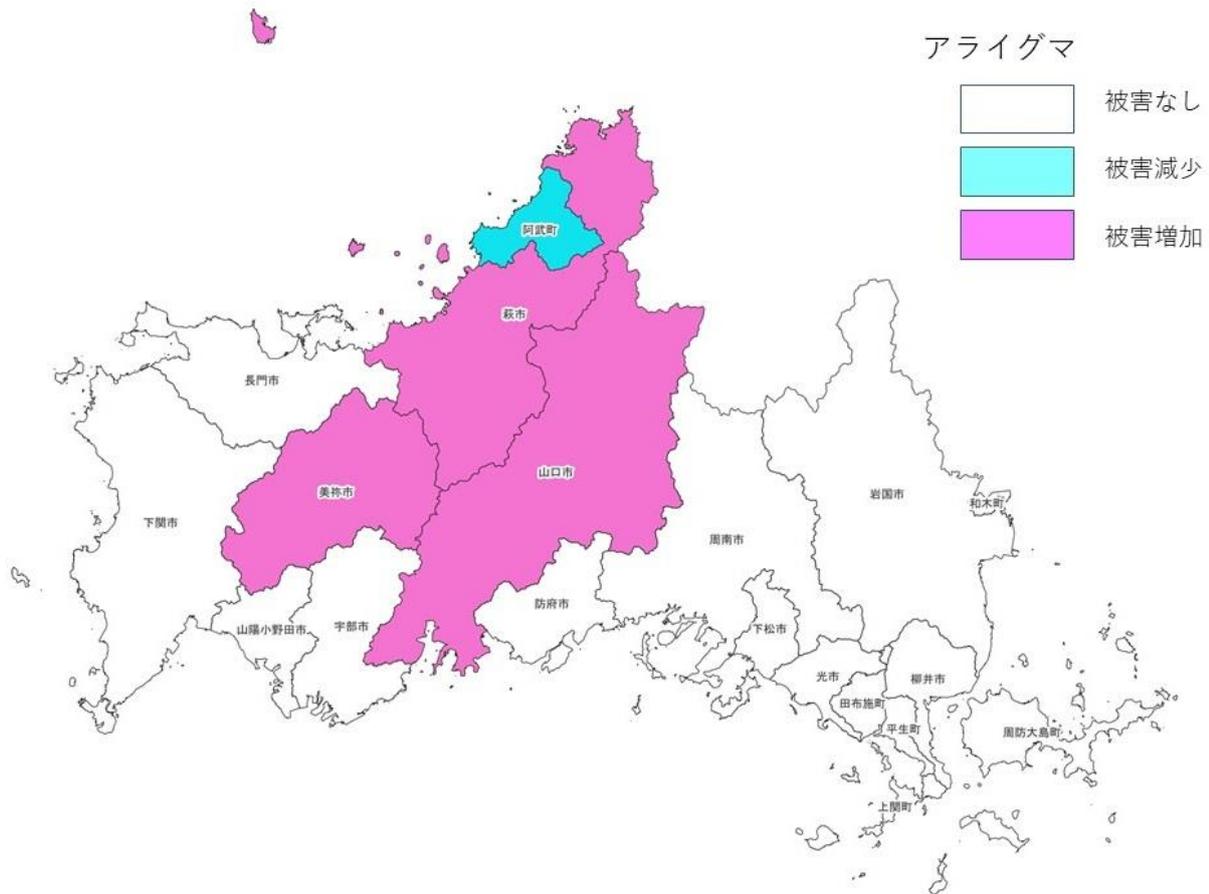


図-2 1 アライグマ被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(6) ノートリア

ノートリアによる被害は平成28年以降増加傾向にあり、令和5年度は対前年度比1%増の約7百10万円となっています。

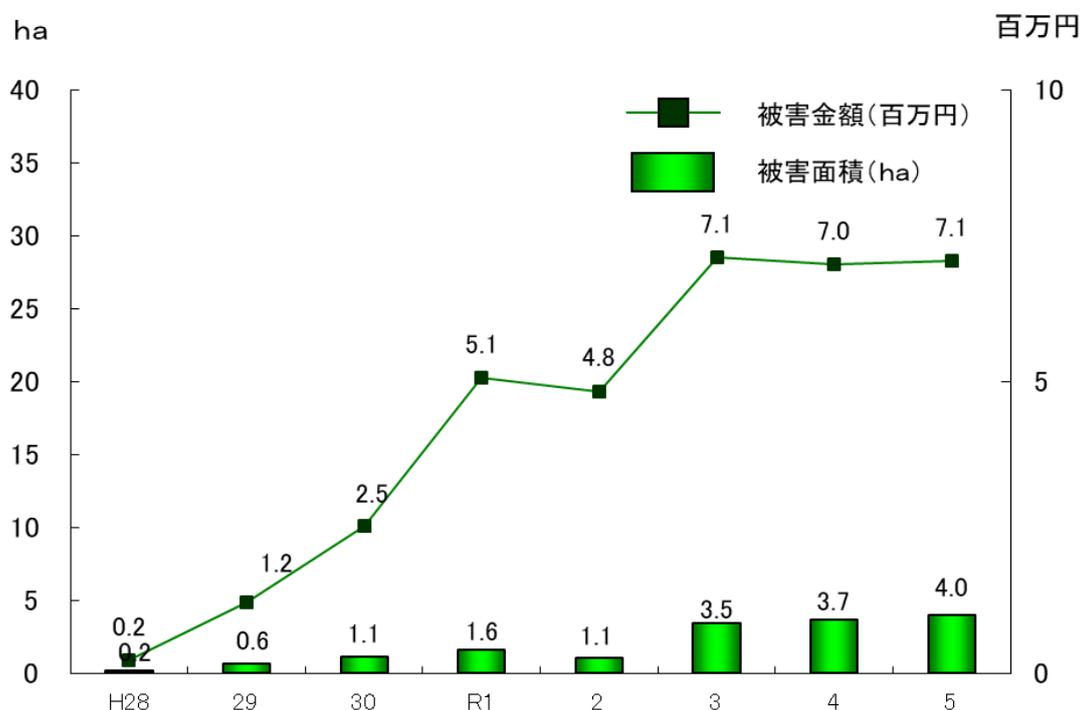


図-2 2 被害面積及び被害金額の推移 (ノートリア)

作物別の被害金額では、野菜が56%、水稻が43%となっています。

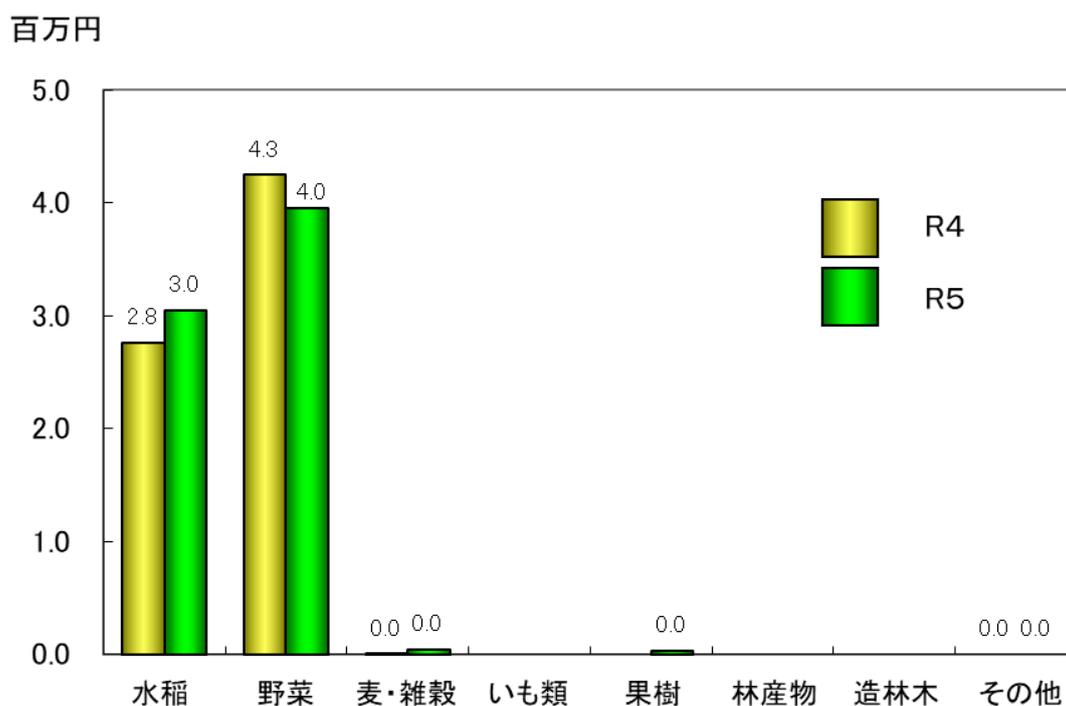


図-2 3 ノートリアによる作物別被害金額

(7) その他の獣類

その他の獣類による令和5年度の被害金額は、対前年度比7%減の約4百万円となっています。

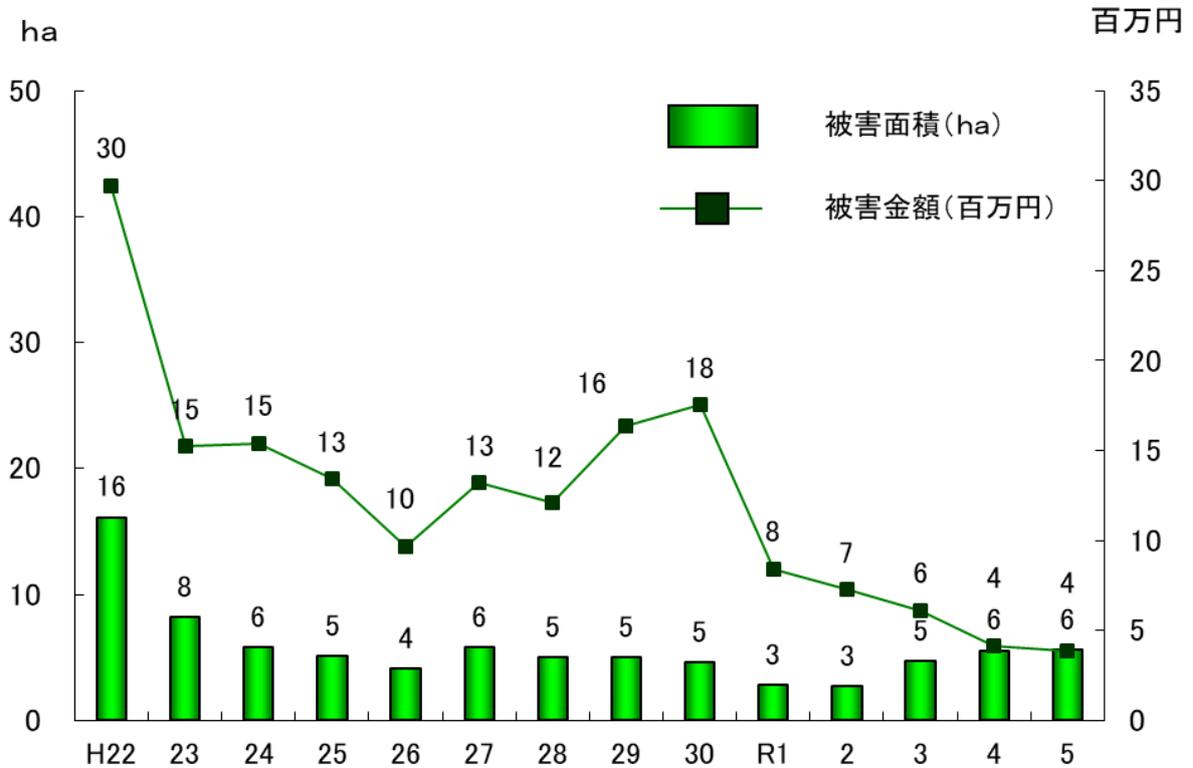


図-25 被害面積及び被害金額の推移（その他獣類）

昨年度と比較するとタヌキ、ノウサギは減少、アナグマ、その他（ハクビシン、テン）の被害金額が増加しています。

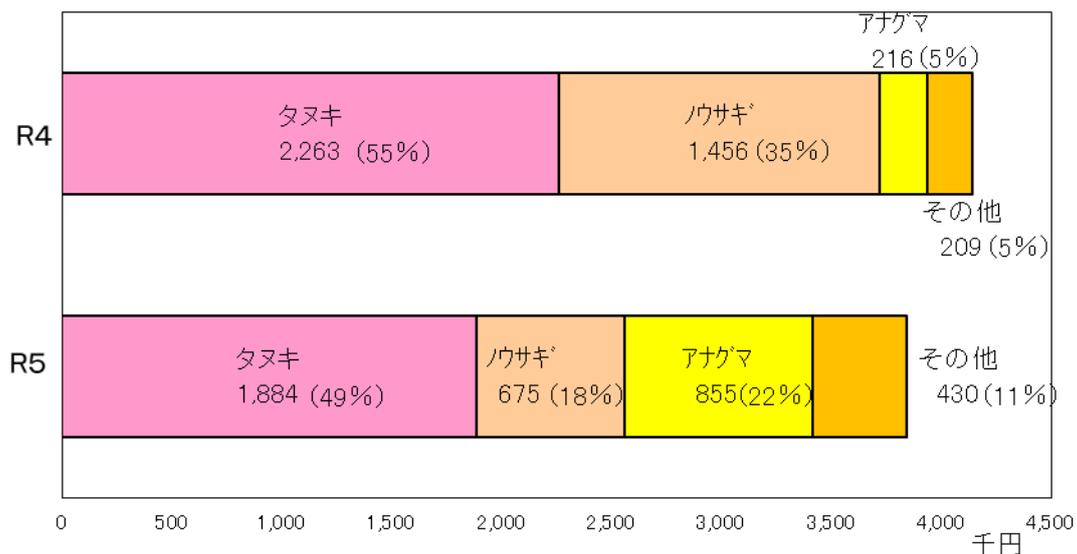


図-26 その他獣類による被害金額の内訳

3 鳥類による被害状況

鳥類による令和5年度の被害金額は、対前年度比25%減の約3千1百万円となっています。

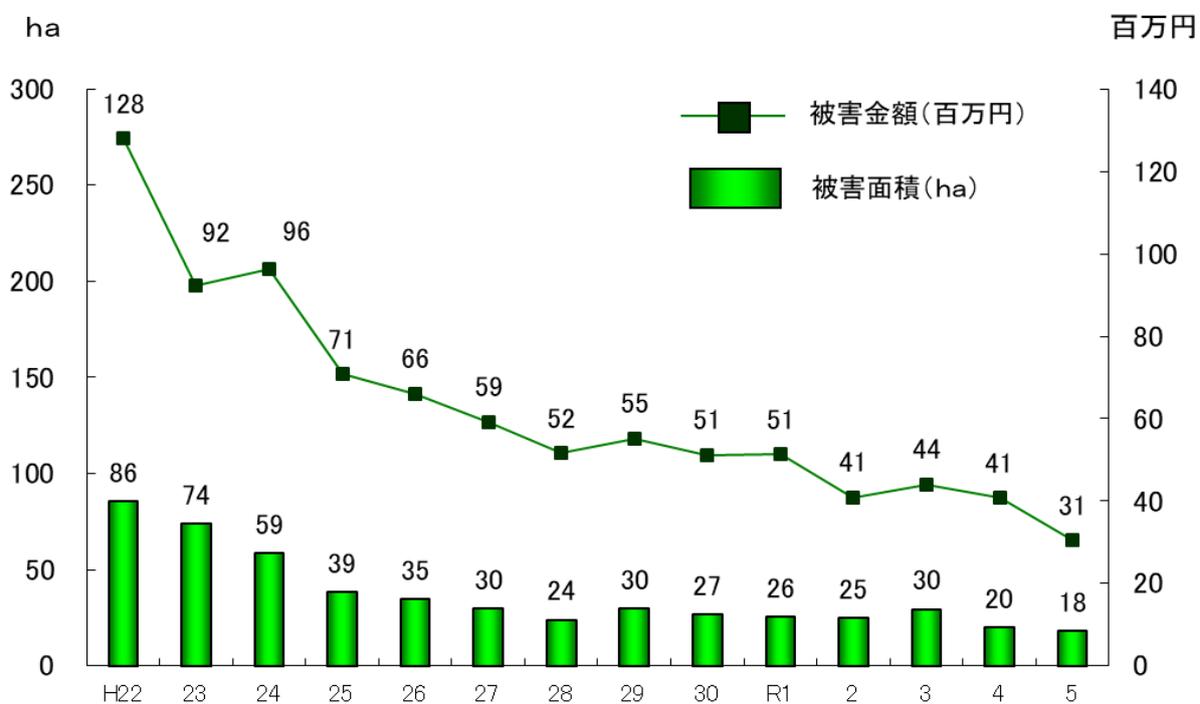


図-27 被害面積及び被害金額の推移（鳥類全体）

被害額全体に占める割合は近年、10%前後で推移しています。

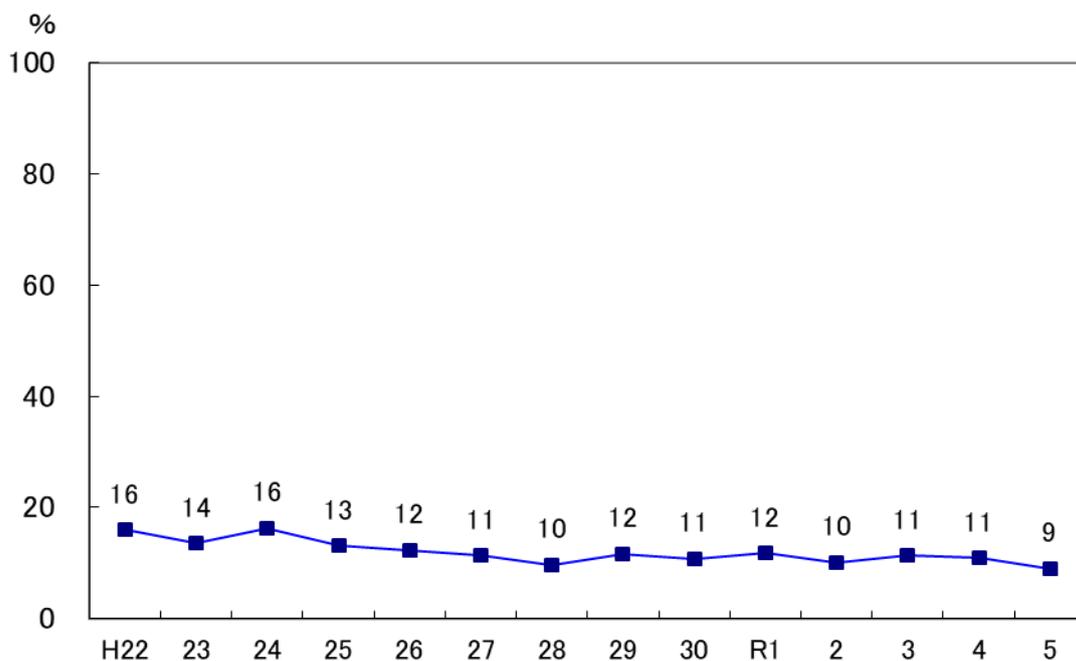


図-28 被害金額全体に占める鳥類被害の割合の推移

昨年度と比較するとカラス、ヒヨドリは被害金額が減少しています。カラスとヒヨドリを合わせて、全体の約7割となっています。

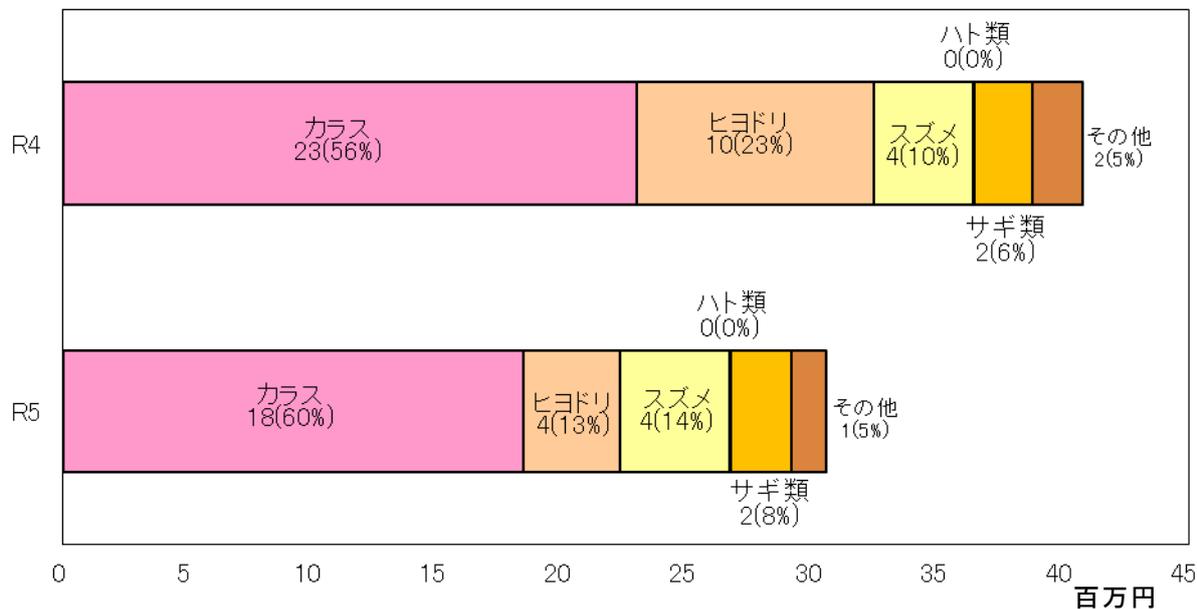


図-29 鳥類の種類別被害の内訳

鳥類の作物別の被害金額では、果樹が最も大きく、次いで野菜、水稻の順となっています。

百万円

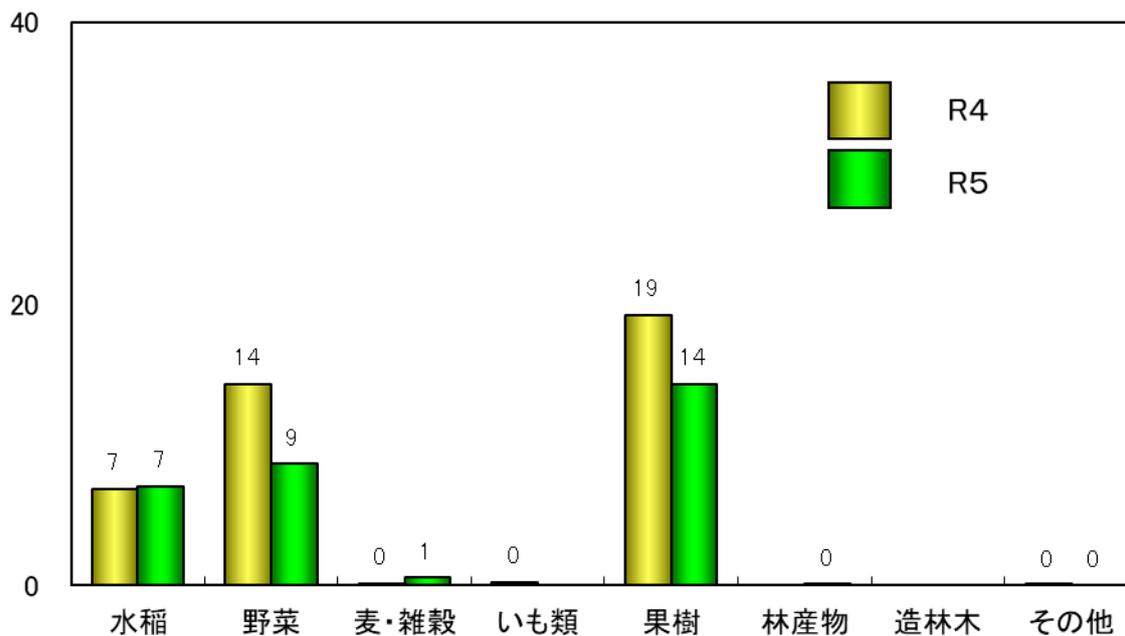


図-30 鳥類による作物別被害金額